

清水 淹

<今回>264回目 2019年8月26日(月)15時~18時 603号室

読書は10冊目「失われた九州王朝」再読 p80 「伊都国」の意味するもの

<前回>263回目(19-8-9) 出席者 9名

資料(19-07-26-1)前回のまとめ(清水)

- 2) 弘仁私記1(清水)
- 3) 弘仁私記2(清水)
- 4) 飛鳥宮跡地の湧水施設(神奈川新聞)
- 5) 東北地域の世界遺産候補地(榛葉)

A 報告 初田氏が体調を回復して出席された。

B 資料 -2)、3) 弘仁私記は平安時代に日本書紀の講読会をしたものを受講した貴族がメモに遺したもの。6回やられている。この初歩的な問答から見ると日本書紀がいかに近畿豪族たちに馴染みのなかったものかがよく解る。黒板勝美博士が校注(378ページ)をつけた。昭和7年、吉川弘文館発行。校本に甲乙丙丁の4種ある。日本書と言ったのか日本紀といったのか。魏書に準じたので日本書といい、天皇紀のみだから後ろに小さく紀と記入した説(この問答もなぜ日本書というのかという問いがある)と万葉集や続日本紀や紫式部日記から日本紀といった説と2つある。

-4) 神奈川新聞に飛鳥宮跡の南北池の北池から湧水施設が発見整備された。拳大の敷石は何のために、水はどこまで覆っていたのか。当然何の施設だったかは天皇の何らかの行事説になっている。

-5) 日経新聞に東北の縄文遺跡群が世界遺産候補になったことが報ぜられた。三内丸山遺跡や大湯環状列石が候補に入っている。

懇親会8名 津多屋12895円(1500・8) -895円

C 読書 p77輪臺

1) 牧健二氏の反論に答えた。反論より

(A) 宛の善馬絶えて来たらず 烏孫侖頭易く漢使を苦しむ(史記第63大宛列伝)

(B) 宛の善馬絶えて来たらず 烏孫輪臺易く漢使を苦しむ(漢書第31張騫李広列伝)

(A)と(B)は同一のことを表している。牧はこれをリントと読み、現地音を表したもので、臺はトと読みうると指摘した。

2) 漢書中の「頭」の文字は尉頭国、尉頭谷、烏頭勞、頭曼、姑瞿楼頭と夷蛮の国名や地名、人名に使われている。現地音トを漢書で臺と表記した牧説は成り立たない。

3) 侖頭~輪臺の場合は音韻表記ではなく別の理由がある。漢の屯田兵の常駐する西域の要害の地の高地を中国風に何々臺と呼んだ。漢側が辺境匈奴の地に臨んで作った高臺の塞を何々臺の形で呼んでいる。

古田先生の書にしては珍しく原文に当らなければ誤字が分からない例があった。

79ページ4行目柏染臺と9行目柏梁臺はどちらかが誤字、朝日版は梁、角川版は染、ミネルヴァ版は梁、漢書を見なければどちらが正しいか不明。漢書は梁。

次回日程 19-9-9(月) 16時から18時 601 会議室

-9-27(金) 15時から18時 602 会議室

-10-7(月) 16時から18時 601 会議室